小中一貫教育小規模校全国連絡協議会報告

１・日　時

平成３０年５月１２日（土）午前９時～午後１２時

２・場　所

京都大原学院　校長室

３・参加者

（国立教育政策研究所）名誉所員
（廿日市市立宮島小中学校）校長
（奈良市立田原小中学校）校長
（新潟県十日町市立まつのやま学園）校長
（京都大原学院）校長
（京都大原学院）教頭
（京都大原学院）教頭
（京都大原学院）研究部長

４・第４回小中一貫教育小規模校全国サミット in 大原について

・京都大原学院で育てたい学力（探究する力・社会に貢献できる力・人間関係をつくる力）をサミットで発信していく。この力のベースにはキャリア教育があり，小中一貫教育小規模はどこでもこの力の育成に力を入れていると考える。
・研究報告では本校の研究で大切にこと（子どもの成長見る視点，TT 授業，アクティブスッチを入れる支援，異学年交流，ICT 活用）や，この１０年間で学院生にどのような力がついたか，検証して発表する。
・当日の昼休みに，サミットの参加校が自校での取組をポスターセッションで発表していく場をつくる。その場の進行はできるだけ若手の教員にお願いする。そのことで若手の育成につながり，今後のサミットがどこの会場になっても主体意識がもてると考える。また，その会場で各地の物品を販売するのもいいのではないかと考える。
・ポスターセッションには自発性があり，とてもいいことである。自分の目で見た学校のよさを伝えることができる。今後参加する学校が増えてくることを期待する。
・基調提案は引き続き大原在住の小松郁夫先生にお願いする
・分科会では交流・地域・学力の３つのテーマで本校の取組を提案して，参加者によるグループディスカッションを行う。
・講評は引き続き奈良教育大学小柳教授にお願いする
・各市町の教育委員会の教育長に挨拶をしていただく。

５・小規模校サミットの今後について

〇サミット全般について

・小中一貫教育小規模校全国サミットを知らない人が多い。参加するとためになる。全国サミットと小規模校サミットとの違いは「地域にどのように関わっているか学校と地域がどのように結びついて，どのような教育的効果を上げているか」の視点であり，小規模校の方が効果があると考える。
・新潟，関東，関東甲信越地方でも小規模校がどんどん増えつつある。小中一貫教育小規模校全国サミットのことをできるだけ広げていく。

・これからも，小中一貫教育小規模校を立ち上げ，作った時のおもいを大切にして，キーワードとして「つながり」「ふるさと」を全面に出して全国に発信していきたい。
・小中一貫教育小規模校を作り，ここ 10 年間のおもい，地域との関わり，田原　小・中学校，宮島学園との出会い３校がトライアングルで取組を進めてきた。小中一貫教育小規模校での，地域との関わりや切実なおもい，使命感を共有して発信していきたい。
・今年度の岩手県大槌である全国サミットでは，京都大原学院での取組を発表して小中一貫教育小規模校のよさを発信していきたい。
・これからは小中一貫教育小規模校での仕組みや枠組みが大切になってくる。今後のサミットには，各校の中堅や若手教員が参加して，教員が得られるものが多いサミットにしていくことが大切になってくる，また，今までのように地域の方も参加して，つながりを意識してもらいたい。また，今後サミットに学生も参加してゼミや卒論のテーマにもなってくると思う。
・小中一貫教育小規模校全国連絡協議会のことを幅広く発信するために，大学生や大学院生，地域の方などのボランティアの力を借りてホームページを作ることもできるのではないか。
・サミットに至るまでの取組，特に授業をしっかりと見せていくことが大切である。そこで，キャリア教育や ICT の活用の視点を発信していくことも大切である。
・それぞれの学校や地域での歴史だけではなく，地形や気候など自然の側面も入れて地域全体を学んでいきたい。教科の横断性，それぞれの教科のこだわりも大切にしながら，今後のサミットでは授業改善やカリキュラムマネジメントの視点でも発信できるとよいと考える。
・小中一貫教育小規模校では，教科や小中の垣根を越えて，子どもと関わることができる。また，小学校と中学校の教員がお互いに授業を見せ合い，学び合うことができる。将来を見据えてサミットでも若い先生の考えも大切にしていきたい。
・地域の方にぜひ学校に来てもらい学校の取組を見てもらうことが重要である。
・小中一貫教育小規模校では，ぞれぞれの地域のすばらしさ，例えば地場産業のよさ，自分たちの足元の産業を育てること，自分たちの地域の歴史を掘り起こして受け継ぎ，伝えていくことを是非ともやってほしい。そして，それをカリキュラムの中に積極的に取り入れていることが重要である。
・最終的には授業改善を通して，地域の子どもづくり，教室づくりが小規模校サミットのウリになると考える。

〇行政との関わりや発信について
・教育員委員会など行政機関への対応が重要となってくる。予算を請求などでは、取組のサイクルに合わせて衣替えをして提案することも重要である。サミットに参加すると私たちの町に役に立つ，夢をかなえることができるという説明も大切になってくる。
・教育員委員会など行政機関に小中一貫教育小規模校全国サミットのことをより具体的に説明していく。また，各地域で校長会などにも広げていくことも重要である。

〇運営の資金的な問題について
・田原サミットでは教育委員会が資金的な援助をしてくれた。しかし，今後教育委員会などに資金面ではバックアップを期待できないこともある。資金的なことは各地域の実情に合わせて柔軟に考えていきたい。今回のサミットから，資料代として 2000 円をもらう。しばらくはこの額で継続していく。そのための資料作りにも力を入れていく。

〇第５回の十日町サミットについて
・新潟県の十日町のある上越地域でも小規模校がどんどん増えている。十日町市は市長，教育長，地域が学校を町おこしの場と考えている。小規模校サミットにも

大いに関心を持っている。

・平成３１年度は第５回十日町サミットで開催する。キーワードとしては「９年間でつける学び合い」「地域の力」「雪里の互恵性」「働き方改革からの学校づくり」である。小中一貫教育小規模校の強みを積極的に発信していきたい。来年度の１０月下旬あたりを候補日として開催したい。

・平成３１年度以降も小規模校サミット開催地の輪を全国にどんどん広げていきたい。

６・まとめ

今回,小中一貫教育小規模校全国連絡協議会の中核である京都大原学院，奈良市立田原小中学校，廿日市市立宮島小・中学校の３校の校長先生に加え，第５回のサミットの開催地の新潟県十日町市立まつのやま学園の久保田校長先生にも，昨年に引き続き参加していただいた。また，今年より大原に在住しておられる国立教育政策研究所名誉所員の小松郁夫先生にも参加していただき，連絡協議会を開催することができた。約３時間の協議であったがとても熱い協議が進んだ。本協議会での大きな目標である全国の小規模校における小中一貫教育の推進を図ることの確認と，参加していただいた皆様の意識の共有化ができたと考える。

全国では，本協議会をリードする，この４校のあるような地域が増えており，さらに今後，全国的に小規模校が増えてくると考える。その中で，小中一貫教育小規模校の共通点としては，学校が地域の，人々の関わりの，活性化の中心であり，また，そうでなければならないということである。サミットでの発信が，そのような学校や地域の指針になれるよう，今後この協議会のつながりを深め，発信できる組織を目指していきたい。

最後に小松先生から，小中一貫教育小規模校全国サミットのこれまでの発信が，着実に広がり深まっていること。２０５０年問題も見据えて，次期学習指導要領での重要な項目である「主体的で深い学び」が本日協議会に参加している４校ではすでにできており，小中一貫教育小規模校こそが，その目的が達成されやすいのではないか。そして，引き続き地域，現場の教職員や地域の方が元気の出る発信を，自信をもってしていただきたいとの力強い言葉をいただいた。今後，本協議会での話し合いをもとに，取組を更に進めて，サミットで全国の学校に発信していきたいと考える。